

巻頭写真 三瓶小豆原埋没林の発見と調査

Discovery and research of the Sanbe-Azukihara buried forest

三瓶山は、中国地方中央部、島根県大田市に位置する。三瓶山山麓の幾つかの地点にスギの立木が埋まっていることは、地元の人たちにはよく知られた事実であった。しかし、1枚の写真(写真1)が松井整司氏の目に留まったことにより、三瓶小豆原埋没林が発見され、一連の調査を経て現在の展示につながった。

小豆原川の河床で、立木や根株が頭をのぞかせていたこと、および高さ数メートルを超える立ち株の存在が写真によって確認されたことから、小豆原にはかなりの数の巨大な立ち株が埋まっていることが想像された。これをきっかけに、平成4年から私費を投じての松井氏による調査が始まり、後に三瓶自然館や島根県を巻き込んだの本格的な調査につながった。

三瓶自然館の拡充整備に合わせて平成10年秋に表土掘削が行われ、一連の調査では初めての埋没立木が発見された(写真2)。この年度の調査では、最終的に、スギ11本、トチノキ1本の計12本の埋没立木が発見され、「三瓶小豆原埋没林」が正式名称とされた。翌平成11年度には、埋没林の形成過程を調べるための現地調査と、展示に向けて3本の掘り出しが行われた(写真3)。また同時に調査地周辺地域のトレンチ調査や三瓶山周辺の地質調査も行われた。この年度末には、掘り出しに伴って巨大流木群が発見された(写真4, 5)。このことをきっかけに、現地での保存施設(「縄文の森発掘保存展示棟」,「合体木根株地下展示場」)を含む三瓶小豆原埋没林公園の整備が始まり、平成15年



写真1 昭和58年の圃場整備で発見された埋没立木。



写真2 最初に発見された埋没立木と松井整司氏。



写真3 埋没立木の掘り出し作業(保存処理に向けて、つり上げられた様子。背後には根株が見える。この立木は三瓶自然館内で展示中。根株は埋没林公園内に展示中)。

5月に完成した(写真6)。一連の調査の成果は3冊の報告書(島根県景観自然課, 2000, 2002, 2003)にまとめられ, 三瓶小豆原埋没林が三瓶火山のおよそ3500年前の活動によって埋没したことが明らかになっている。さらに Watanabe et al. (2009) は, 三瓶小豆原埋没林公園内での埋没立木の樹種同定と古土壌の花粉分析から, 三瓶小豆原埋没林が, およそ4500年前の火山活動によって生じた荒地から, 河畔林を経てスギ林へと遷移したものであることを明らかにした。

引用文献

島根県景観自然課. 2000. 三瓶埋没林調査報告書(平成10～11年度概報). 122 pp. 島根県環境生活部景観自然課, 島根県.

島根県景観自然課. 2002. 三瓶埋没林調査報告書II(平成12～13年度概報). 138 pp. 島根県環境生活部景観自然課, 島根県.

島根県景観自然課. 2003. 三瓶埋没林調査報告書III(平成10～14年度調査まとめ). 102 pp. 島根県環境生活部景観自然課, 島根県.

Watanabe M., Furuno T. & Nasu T. 2009. Paleovegetation at the Sanbe-Azukihara *Cryptomeria japonica* buried forest and its vicinity at ca. 3500 yrs BP, Shimane Prefecture, southwestern Japan. *Japanese Journal of Historical Botany* 17: 45–53.

(渡辺正巳・中村唯史・古野 毅 Masami Watanabe, Tadashi Nakamura and Takeshi Furuno)



写真4 掘り出しトレンチ内部(地上からトレンチ内部の巨大流木群をのぞき込む)。



写真5 掘り出しトレンチ内部(立木と巨大流木群)。



写真6 現在の三瓶小豆原埋没林公園(大小2つの展示棟のほか, 公園内の整備も終わった。立木が確認できた位置には, それぞれの太さに合わせたモニュメントが設置されている)。